東輝

みどり市立大間々東中学校
学　校　通　信
令和４年１２月１４日　第２０号

子どもたちはこんなことを考えました

世界人権宣言が国際連合で採択されて今年で７４年。勉強や部活動が大変だと感じることもあるけれど、そんな何気ない日常を過ごせるのは、これまでの歴史の中で人々の人権が少しずつ獲得されてきたから。そんな中、世界共通の重要なテーマである人権について、大東中の生徒も集中的に考える期間を設けました。

例えば、生徒は以下のようなことを考えました。講話を聞いた後の、生徒の感想のごく一部の抜粋（原文とは少し表現を変えさせていただいた部分もあります。）ですが、子どもたちの感想を見て、大人としても改めて考え直す必要を感じました。

◆ＤＶＤで見たように、「人権って何？」と聞かれると、私も答えられないような気がしました。でも、前の時代から人権についてさかのぼって知ったことで、人権に対する理解をより深めることができました。人権を難しい話だと捉えずに、自分が思っている「差別をしない」「平等にする」「社会の中での権利」「一人一人を尊重する」「みんなの自由」などのことをもう一度考え、この人権集中学習でさらに学べていけたらいいなと思いました。
　大きな社会全体の遠いような問題から、学校や家庭など、すぐ近い存在にも人権を侵害している現実があるとわかりました。自分の行動や発言を改め、自分のことだけにならないように、ほんの少しずつ、遠いように感じるけれど、実はすぐそばにある社会の人権問題にも中学生として目を向けていきたいです。

◆自分が過ごしている毎日は当たり前ではなく、ありがたく感謝しなければいけないことだと思った。それと同時に「苦しい」と思った。生まれてきた瞬間から悪い人なんていない。生まれてきた瞬間からその人の人生はその人だけのもので、幸せになっていいという権利がある。なのに、生まれてきた環境や見た目で未来が決まってしまう。「人間らしく」そんな生活ができない人がいる、ということを考えたら、全く人ごとではなく苦しくなった。

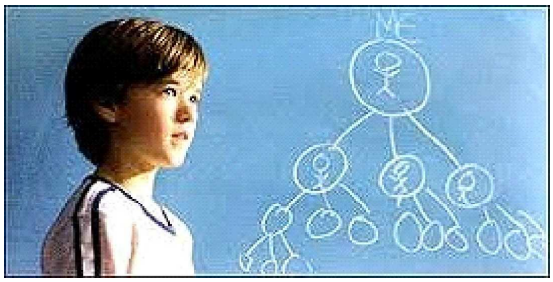
◆本当にこの世界は人権を守れているでしょうか。正直、守れているとは言い切れません。でも、だからこそ、これからの未来をよりよくするように、私たちが築いていくのだと思います。

◆人権デーだけではなく、ずっと人には人権があることを忘れないで生活していきたいと思います。

◆これから自分の視野をさらに広げて、一人一人を尊重できるように、自分から気づき、考え、行動（実行）できるようにしていきたい。

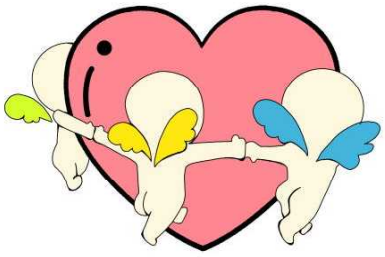
◆自分は人権週間を、これまで意識して過ごしていなかったけれど、今回からは「人権とはどういうものなのか」ということを考えて生活したいと思った。

◆初めて上の事実（今でも奴隷がいること、飢え死にしている人がいることなど）を見たときに思ったことは、「自分は恵まれているんだな」でした。そう思うだけでなく、「自分にできることは何だろう」と思っていたときに、映画の話があり「恩送り」をするという方法に納得した。



（映画「ペイ・フォワード」より）

（裏面に続く）



◆人権は「当たり前にあるもの」ではなく、「当たり前にならなければいけないもの」と考えました。

◆自分たちが「人権はただの紙の言葉」という見方を変えていくべきだと考えた。だからこそ、身近でも人権に関わることはいっぱいあるから、自分ができることをしたいと考えた。

◆この授業を受けて意識として変わったことは、人権とは差別といったことだけでなく、全ての人間は生まれながらの自由をもっていて、人権を考えるきっかけとなる行動が数千年前に起こったのに、今になるまでに徐々に広がってきただけで、全ての人権がまだ守られているわけではないことを知り、一人一人の行動がとても重要になってくるのだと思いました。

◆先生の話を聞いて、私達の身近にも様々な人権問題があることを実感した。私も無意識のうちに相手の人権を侵害しているかもしれないと思った。人権問題を少しでもなくせるように、自分ができることを考えて行動できるようになりたい。

◆「利己」と「利他」について知り、自己中心的な考えになるのではなく、周りを見て思いやりのある人でありたいと改めて感じた。

◆「恩送り」という考えを聞いてとても印象に残りました。自分がしてもらって良かったことや自分がされたら良いことを他の人にする。それがどんどん広がっていくのはとても素晴らしいことで、どんどん大きくなれば世界が平和になることも実現されるのではないかと思いました。

このなんでもない日常が世界中のみんなの日常になってほしい

みどり市の富弘美術館が実施する詩画の公募展をご存じの方も多いと思います。この公募展は今年で第１０回を数えますが、昨年度に引き続き、本校の生徒がみどり市中学生の部で「大賞」を受賞しました。

３年生の齊藤絵心さんが創作した作品です。この作品にも戦争という言葉が書かれており、人権に関わる想いが伝わってくる作品であるため、上記の人権集中学習の記事とあわせ、今号に載せました。

この公募展は、全国的に応募者がある大きな事業ですが、１２月３日には富弘美術館で表彰式が行われました。受賞作だけでなく、市の小中学生の部は全ての応募作品を展示します。大間々と東地域の学校の応募作品は令和５年１月１１日（水）～２月２６日（日）までが展示期間となっていますので、時には地元の美術館に足を運んでみてはいかがでしょうか。

なんでもない今日という日の通学路には
いつも猫が通りかかる
猫をみると「今から学校なのに君はのんびりできていいね」と思ったり
世界を見れば「この日常が幸せなことなんだろうな」と気づかされたりする
君は今、世界で何が起きているか知っているかい？
知るはずないよね
戦争はどの時代でも絶えない
このなんでもない日常が世界中のみんなの日常になってほしいと思う